明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可　（日刊）日曜日及祭日の翌日休刊　明治四十二年五月十四日（金曜日）　第百八號　（一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

寄書

●俳句と美學との關係（三）

總堂

稻妻やの句を讀て崇高の美を感せざるは未だ俳句の正道を踏て居る人とはいへない、古池の句も稻妻の句も別に深い意義がある譯では無い、唯大空に電氣が光りて五位鷺が闇の方へ飛で行くといふ自然ありのまゝの夜景に過ぎぬのだ、今時此樣な句を讀だからさて誰も賞めても呉れない、則ち現今俳道の墮落して居るからだ今の俳句を作る者は多く自得の緊要が足りない芭蕉沒して以來俳道は墮落し、天明に蕪村起り蕪村沒して又墮落し、明治に子規起り子規又沒して墮落し、遂に俳道は俗化せられて居るのだ、唯鳴雪翁のみ天の一方に明月の如く輝て居るのみである、子規沒後以來俳句に志す者は非常に多く成つて來たが、實は子規といふ大波が起りて後は小波が動いて今や消へんとして居る時代で、俳人の數のみ多い時代であるこれでは俳道の吉祥とは思へぬ。

俳て初心の者は始めから蕪村や曉臺を讀だからとて分るものでは無い、子規の樣に研究を積でからで無くては駄目だ、蕪村講義位讀だからとて、それで忽ち悟り得るものではない、それで悟り得るものならば何も子規翁のやうに圖書館へ行つて萬卷の俳書を讀で苦心するにも及ぶまい、先づ稻妻の句を讀で見給へ人々の意識次第で種々の趣味が起る、第一五位鷺が闇の方へ飛で行くのを見ては人として大に勇往邁進して成巧の花を得なくてはならぬと人は思ふであらう、第二五位鷺のやうな鳥でさへキリストの野に天父を主唱したやうに神の道を主唱して行くではないか、宗教家は說くであらう、第三五位鷺の羽へ電光がヒラリと光る色は何と宜い色では無いか、此の色を大いに研究すべしだと美術家は言ふであらう、此くの如く人々の見方に依りて種々樣々に趣味が變るのだ、此れが自然ありのまゝを歌ふ特色である、若し哲人が思ふ如く宗教家が說く如く美術家が言ふ如くに俳句を讀まれては吾々詩人の本分は消されて詩人則ち俳人として主唱することは出來なくなる詳言すれば哲人や宗教家や美術家の奴隷と成てしまふのだ故に俳人は俳人として美を本分として立たなくてはならぬ、此の說は何も新說ではない早く獨乙のレッシングが言はれて居るのである、そこで自然を歌ふのには何に苦心して自分勝手な考を加へてわざ／＼主觀に見て不成巧に終る必要はないのだ、されば之こそ初心の者へは蕪村門家の召波の句集を進めるのである、此から入門すれば決して邪道に迷ふことはない、安心して蕪村の句をも窺ふことが出來るやうになる、實に召波は蕪村門家に出で一派を開いて居る、然るに、現代の人々は皆先輩の格調に習ふのみにて少しも、開拓の風が見れない、一頭角を現はさうといふ理想に乏しい、これでは何う俳人が出るからと言つて烏合の衆と成つてしまふので面白くも可笑くもない、平々凡々たる俳人と成つてしまふのだ、吾人は現代の新句を研究すると同時に元祿、天明、天保時代の句をも研究してそれから、自巳の識見を定めて置かなくてはならぬ、自巳の識見を定めて置かぬ限りは俳道に軍配を上げることは出來ぬ……

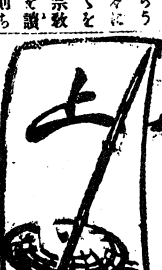
文苑

●●●少女と猫　世辭

「鳥が飛ぶ、魚が泳ぐ、犬が走る、人が歩む」と芳ッちゃんが聲を張り上げて小學讀本を讀んで居ると八ッ許りになる姉さんの君ちゃんがだしぬけに後からワッと愕かした、案の條芳ッちゃんは驚き且つ怒つた、ソして早速君ちゃんの惡口を言つた「落第……」此で此の「落第」といはるゝのは君ちゃんに取つて餘程辛いらしい、ダガ姉さん丈負けては居ない「寢小便たれ……」といひながら芳ッちゃんの頭を叩いた、芳ッちゃんは泣いた猫は椽側で耳を引ッ立て眺めて居る。

●●●●●●我輩は判任官である　くはの

我輩はヨボ判任である、本俸は七十圓、手當二十五圓、合せて九十五圓、内地の高等官よりはずつと割が好い、而も仕事は極く樂だ上官より免の字を食はない以上は死ぬ迄勤めて居たいものだ全く考へて見るとうまい職務もあつたものよ、それといふも第二協約の結果だ、高い聲ではいへないが佛々公のお蔭だ、今では斯うしてウヰスキーの一杯も飲めるやうになつたから實際不思議だ併し昨夜夢見が何うも氣になる、本俸も手當も殆んど半分に減少さるゝといふ噂を聞いた夢であつたが事實となつて現はれにければよいかしら……。



佐倉宗吾（七十九）

眞龍齋貞水講演

四「ハア、失禮を致しました、別に貴下方に何等もございませぬ　五「わつちも堪るものか餘計な御若勞だ、エッ、氣を注けて是から人の座敷へ這入らねえやうにしろ　三「オウ、俺ッ達にも何とか云つて往け親分にも挨拶しねえで、恐ろしい勢ひだから、有繫の多賀四郎兵衛這々の体で下へ降りて來て　四「源兵衛二階の御客は亂暴だな　源「些とも亂暴な事はありませぬ强を挫き弱きを扶けると云ふ親分でございます、第一上野の宮樣の御威光は大層なものでございます、此前船橋で、あの方に間違をした時、土地の役人でも何でも殘らず引上げられました强氣な勢ひなもので、上野の宮樣へ御差支と成つちや大變な事でございます、併し貴下方は別にそんな事もございますまいが……　四「併し何うも、あゝポン／＼云ふ奴はない」下で愚頭／＼云つてるのを、向う見ずの三次が見て　三「オウ島屋さん、木葉役人は歸りやがつたかね　四「オウーッ」と三人の役人は逃出して仕舞う、其内に源兵衛登つて來て　源「どうも井筒屋の親分、有難うございました　五「如何だね些とポン／＼云ひ過ぎたかね　源「イエ、あの位の事は結構でございます貴下方の勢ひに恐れをなして、吃驚して歸つて仕舞ひました　イヤもう平目茂と彼方を睨けたり此方を睨けたり始末に行かない奴でございます、有難い親分の御威光で、奴鳴り付けなすつた所は、快い心持でございました　五「ナニ、此方が偉いんぢやねえ、お前さんの計ひが宜かつたから、巧く行つたんだ、是と云ふも天の助ける所だ」一同喜びました、さて宗五郎は、日の暮れる五ッの鐘を聞いて徐々支度に及びまして島屋の外圍から裏の方を、それとなく容子を見る奴がわつちやならぬと思ふから、彼方此方を見廻し万事に氣を注けて出掛けました、既う最前より降出して來ました雪は段々白くなりまして彼方も此方も一圓の銀世界と成る宗吾は此雪こそ天の祐けと只管道を急ぎました、此方は常廻りの多賀四郎兵衛、どうも氣に成つていけないから、一旦島屋を出ましたが上野三十六坊へ出入をして居る、下谷坂本町の井筒屋と云ひ、向うも彼の若い者の態度と云ひ、如何にも撲て掛りさうだつたが、普通の者ぢや、此方も御側御用箪頭、堀田上野樣の御領分、何も威張られる譯のものぢやない、けれども、こいつは殊に依つちや、何か云はれた日にや、俺が後に飯の食ひ上げに成るかも知れない、斯りや引返して内々島屋源兵衛に訊いて見やうと、そこで四郎兵衛は、目明も何も伴れずに、自分一人で、源兵衛の門口へ來た、既う往是五ッ半頃はひでございます　四「島屋ッ　源「へ誰樣でございます　四「私だ」と見ると多賀四郎兵衛　源「へ、斯りや旦那樣ですか」何か斯りや引返して探りに來やがつたか、公津の旦那樣は途中で御會なさりや爲ないかと思ひますから　源「何事か御用ですか」素知ぬ顏で訊く　四「少し内々訊たい事がある實は先刻の二階の客だが、もう寢たかへ　源「イエまだ寢る所ぢやございませぬ、酒を飲んで居ります　四「ありや何だらうな、何どか云つたらうな」源兵衛腹の内で、脅喝してやらうと思ふから　源「そりや云つた所ぢやございませぬ　四「如何な事を云つて居た　源「あゝ野郎、十手でも振上げたなら、足でも手でも打挫いて、江戸へ引摺つて往つて眼に物見せてやるんだが、ブル／＼戰慄いてヒョロ／＼米搗バッタのやうに頭を下げやがつたから免してやつたが、野郎もう一度ぢたばた吐かしや、以后の讖戒に叩つ斬つてやるつて　四「何だつて、叩つ斬るつて……　源「へ、頭を叩き破るつて　四「篦棒め、頭を叩き破られて耐るもんか



京城新報

統監更任説

統監更任説は幽靈の如く屢々傳はるも毎時も正体を現はさずして消へ去るを例となせり、幾度東電報に來るも世人は注意を拂はざるのみならず、餘りに伊藤老公の優柔不斷なるに呆然たる也、余輩は伊藤老公が一身上の都合や或る他の事情なるものの爲に其去就を決せず、荏苒歳月を空過し、其間殆ど統監政治の運用を休止するの姿なきに非ざるを傍觀するに忍びざる也。韓國の保護政治は余輩の屢々繰返すが如く唯輪廓のみ成りて實質内容の經營は將さに是より着手すべきもの多し、此多事の時に於て悠々寛々辭任するとか適當の後任者なきとかにて進退を決せざるは、如何に春色長閑なりとは云へ、亦老人連の氣長なりとは云へ、餘りに其責任を輕ずるに似たり、帝國政府は宜しく速に之を斷じて世人の惑を解くと共に保護政治の發展を計り以て帝國大陸經營の基盤を確立せざるべからず、情實纒綿元老の身上に對する都合等の爲に空しく保護政治の運用を緩慢ならしむる時ならんや頃者亦統監更任説は始まれり、來電に依れば後任者として桂、寺内、曾禰の三氏擬せらるゝも桂は現在の位置を動く能はず寺内は統監たるを好まず結局曾禰に決定すべしと、此説は既に傳はりて今更に始りたるに非ず、惟ふに曾禰副統監が歸朝を命ぜられたるより起りたる想像説に過ぎざらん、一説に依れば副統監の歸朝は統監陞任の相談を受るに非ずして官制改革に就て副統監を廢するを以て曾禰子を他に轉任せしむる爲也統監には更に適任者を以てすべし云々、是も亦一の想像説に過ぎざるべしと雖も、一應理由なき説にはあらず、官制上副統監の廢止は實際に於て機宜に適せる也、統監政治の現状を知るものは何人と雖も副統監存置の必要を認むる能はず、副統監の存置以來何等の効蹟ありしやを回顧せば一目瞭然たり。此點より觀察して副統監の廢止曾禰子の轉任説は强ち根據なしとも斷ず可らず。今や斯の如き枝葉の問題は措て統監の更任を斷ずること最も急務也、其後任者に就ては桂首相が現在の位置を去る能はざるは勿論、寺内陸相は伊藤公の制肘を厭ふて統監たるを好まざる事も眞ならん。然れども余輩の見る所を以てすれば伊藤公にして斷然辭任すれば決して後任者なきを憂いざる也。要は伊藤公が眞個に辭任の決心あるや否やの問題也、徒に虚榮心の爲に優柔不斷決せざるが如きことなきやを氣遣ふ。保護政治の發展を沮止せしめざらんと欲せば公たるもの潔よく其去就を決すべき也。適當の後任者なきを云々するが如きは所謂老婆心に過ぎず、公にして辭任を斷ずれば自ら適任者現はれむ、決して憂慮するに足らざる也。

東京電報

▲孫の謁見 ベルリ提督孫チョンホーン氏は參内天皇陛下に謁見せり

▲臺灣總督後任 佐久間大將は今年十月を以て定年に達するより長谷川、川村兩大將の中より同總督に新補さるべし

▲瀆職議員公判 瀆職代議士の公判は廿五日より各室に於て開く

▲配當金交付場所 東洋拓殖會社配當金の交附場所は東京大阪韓國三ケ所にして何れも第一銀行にて取扱ふ事に決せり

(以上十三日發)

外報一束

●土國廢帝私有金 土耳其イルジツ宮にれいて更に廢帝の私有金千五百萬法を發見し之を政府に沒收せり

●名古屋市債好況 名古屋市債は應募高の非常に多大なるため卽日締切らるゝに至れり而して倫敦のみにても其應募高は募債額の十倍を超ねたりと報ぜらる

●伊太利又々地震 伊太利カラブリア及びメッシナ地方に強震あり痛く住民を畏怖せしめ甚廣豁なる田園地方に逃避せり

●外債借換は困難 歐洲に於ける財界の回復期に入りたるを見て直に外債借換に着手する如くいふ者あれども既發公債を更に低歩の公債に借換ることは其間非常の手腕を要することとなる蘭銀行の公定利子を引下たるも尚金融市場の閑散を持續したる後に非れば到底借換をなすは困難なるべしと

●ル氏と市長候補 紐育にてはルーズヴエルト氏の歸國を待ち氏を紐育市長候補者に推し運動すべき目的にて獨立の一黨組織せられたりと

●借款紛議落着す 粤漢鐵道借款に關する獨逸シンヂケート及び英佛シンヂケート間の紛議調停の談判は數日中に落着すべし獨逸の提議は其借款を三百万磅より五百五十万磅に增加し川漢鐵道をも之に加へ粤漢鐵道の技師長は英人とし英佛シンヂケートより鐵道材料を供給すべしといふ

雜報

●地方税認可申請

從來地方税に關し觀察使又は財務監督局長が各監督高級官廳の認可を受くべき場合に當りては觀察使又は財務監督局長は各高級官廳に直接認可を申請しつゝありたるを以て高級官廳に在りては之れを協議すべき他の高級官廳に移牒し協議の上認可を與へつゝありたるが斯くては事務の繁雜と澁滯を見るの嫌あるが故に今般內部は度支部と協議の上地方税に關する認可申請方に就ては豫め觀察使と財務監督局長と會議を重ねたる上にて申請せしむることゝなしたりと

●韓國の中央銀行

韓國に於ける中央銀行設立の計畫は既報の如くなるが更に聞く所によれば此際韓國に中央銀行を設立せんとせば新に一の銀行を設立し之れをして第一銀行京城總支店の行ふ中央銀行の機能を行はしめんか又は第一銀行京城總支店を全然中央銀行に改造せんか又前者の場合には現在韓國に散布せらるゝ第一銀行券約一千万圓の引繼ぎを如何にすべきか何れにせよ紙幣は人と馴染むことを以て重要條件の一とすべき性質のものなれば今更紙幣の改造は期し難き所なれば是非共其銀行券を引繼がざるべからずとして第一銀行京城總支店を其儘中央銀行に改造せんとするには第一銀行も株主の一部に加はらざるべからず尤も同支店が現在韓國中央銀行の任務を行ふに就ては東京なる同銀行本店とは何等の關係なく此點に於て京城支店は殆んど獨立の姿にあるものなれば寧ろ此れを改造するが便利なるも知れず要するに此問題は目下尚は其筋に於て調査中なりといふ

●東拓調査狀況

東洋拓殖會社調査部には韓部長以下立花、米山の兩調査役、龍江調査囑托、笠原、石橋の兩參事其他七八名の部員ありて諸般の調査を爲し居れるが調査事項は一般經濟及殖民に關する事項並に舊慣の調査にて其の細別は田畑、芦田、塩田未墾地の面積及其の時價、小作慣例、最近外國貿易に關する事項蔬菜産地及販路各道重要物産の調査及農業殖民に關する事項等にて過般來部員を各地に派し調査せしめ居れりと

●帝室財務審査會 帝室債務審査會は十三日午後一時より度支部に開會したるが今後一二回審査をなせば全部終了すべしと

●善行者褒賞規則 內部大臣は衆人の模範となるべき善行をなせるものに對し褒賞を與ふる方針にして善行者褒賞規則を制定する由

●典當舖規則の改正 現行韓國典當舖規則は數年前の制定に係り不備の點少からざるを以て此が根本的改正を加ふる筈にて一昨日內部にては法令審査會を開き草案の審議を爲せりといふ

●朱安鹽田の製鹽額 一昨年九月四日朱安天日製鹽場開始以來本月十一日迄の製鹽總額は十六万二千三百十一斤に達したりと若し此の成蹟にて進めば廣梁灣の鹽田完成の曉には毎年一億萬斤の製鹽を見るべしと

●平南鐵道の速成 平南鐵道線路の豫定測量は此程終了を告げたるを以て愈々本年度豫算九十万圓の支出額中より廿五萬圓を支出し內八万圓を以て土地買收を行ひ全速力を以て來月頃より工事に着手する筈なりと

●博覽會と出品勸誘 仁川日本人商業會議所に向け統監府より明年五月より十月まで英國倫敦に於いて開催せらるべき日英同盟博覽會に韓國の品物を出品するは韓國を諸外國に紹介する上に於いて頗る便利なるを以て勸誘すべしと申達し來れりと

●廣梁灣の鹽田工事 廣梁灣鹽田工事視察として先日來出張中なりし塚本技師は過日歸任したるが其の云ふ所を聞くに豫て報道せし如く該工事は三年間に亘る大工事にして本年中には鹽田百十五町歩を竣成する筈なるが其の設計に對する圖面も兩三日內に調製濟となるを以て來る二十日頃より愈工事に着手すべしと云ふ

●親睦會參會者數 來る十六日開催すべき日韓人親睦會の參列申込人員は一昨日迄に於て日本人八百名餘韓人一千餘名の多きに達したる由なるが其重なる參列者は韓國皇族、曾禰副統監、大久保軍司令官、韓國各大臣、各參與官其他日韓文武高等官等なりと尚同會場の設備は昨十三日より着手したりといふ

●敦化門前路の沿道 本年度の豫算に計上したる漢城沿道費の一部を以て敦化門前路を改修する筈にて過般來內部土木局は直營にて之れが工事に着手中なるが同道路は巾八間長さ四百四十二間にして其豫算總額は昨年度に於て集めたる材料及び本年度に於て聚集すべき不足の材料並ひに總工費等合せて約一萬五千圓にて來る七月を以て竣工すべき見込なりといふ

●龍山民長の內定 淵上龍山民長辭職后其の後任に就きては屢々民會を開き種々協議せしが其の結果左の四氏を推薦したりと

山口縣吉敷郡長大久保到、元財務官佐藤佐、元神戸市助役石川武夫、元兵庫縣警視井上貞傳

而して其の結果畧ぼ大久保氏に內定せしとかの事なり因みに大久保氏は現に山口縣吉敷郡長を奉職し下級官吏より漸次昇進して警視となり更に同郡長に轉任せし由にて本年四十八歳なりと

●園遊會と臨時列車 來る十六日(日曜日)をトし鐵道管理局長官は仁川萬石洞に於て京龍仁の紳士數百名を招待し園遊會を催うす由は既報の如くなるが當日來賓用としても左の時刻に依り臨時列車を出すべしといふ由

●萬石洞行●

西大門發	午後一時二十分
南大門發	午後一時三十分
龍山發	午後一時三十七分
萬石洞着(假停車場)	午後二時四十五分
萬石洞發	午後五時三十五分
龍山着	午後六時四十三分
南大門着	午後六時五十分
西大門着	午後七時

尚當日左の通常列車も特に萬石洞に停車せしむる由

西大門發 午後十二時四十五分▲
南大門發 午後十二時五十五分▲
午後二時三十分
龍山發 午後一時九分▲午後二時四十一分
萬石洞着 午後一時二十分▲午後三時五十八分

●南大門行●

仁川發 午後四時三十五分▲午後六時□分
万石洞發 午後四時三十五分▲午后六時十三分
龍山着 午後五時三十一分▲午後七時十一分
南大門着 午後五時三十七分▲午後七時五十五分
西大門着 午後五時四十三分

而萬石洞假停車場より會場迄は約五丁なる由

●局長會議の終了 過日來開會中なりし財務監督局長會議は愈々今十四日終了の筈なるが農商工部中村農務局長は昨十三日同會議に臨み或る事項に就きて說明を爲したりと云ふ

●鎭南浦の築港費 鎭南浦の築港は八十萬圓を投じて工事に着手する筈なるか其工程は同所の飛溅島より税關方面に向つて突堤を築く筈なり

漫畫募集

▲應募心得▼

一、畫題は時事問題に關する諷刺
二、畫面は四寸五分と二寸二分五厘 但竪横自由の事
三、當選者へは本紙一個月分を進呈す

四十二年五月

京城新報社

●澁澤男と砂金採掘 澁澤榮一氏は咸南洪原郡東元川社に於て四十九萬餘坪の砂金採掘權を獲たり

●總裁の東上と歸期 既報の如く東拓總裁宇佐川男は隨員と共に今十四日朝出發せし筈なるが井上理事は總會終了後二十五六日頃東京出發歸社の筈にて總裁は來月初旬歸社の豫定なりと

●整理局員の出發 豫て報導したる臨時財産整理局員は土地に關する舊慣調査の爲め今十四日夫れ〳〵地方に出張すべしといふ

●勝田局長の出發 勝田大藏省理財局長は愈々今十四日午前九時十分南大門發の滊車にて平壤に向ひしが度支部の藤原及吉松の兩書記官は開城迄見送りたる筈なり

●石塚長官代理晩餐會 石塚總務長官代理は勝田理財局長の來京を機とし一昨十二日午後六時より掬翠樓に於て晩餐會を開きたるが來會者は曾禰副統監長濱關税總長、鈴木司税局長、外波武官、佐竹、國分兩秘書官、中山、荻田兩統監府書記官、佐々木、藤川、藤原、吉松度支部書記官、宇佐川東拓總裁、吉原東拓副總裁、三島一銀菅原百三十、清水十八の三支配人等にて十時散會したりと

●金融部擴張詮議

東拓會社の金融部にては其の資金餘りに少額にして何事も爲し得ざるに付き少なくとも該規定の二倍以上に爲さんとするの計畫なり目下詮議中の由なりと

●新税賦課と民情

此程忠淸南道公州郡溫陽郡を視察して歸來したる某氏の談を聞くに同地方は山間僻陬の地とて新税發布の如きは一二新聞の講讀者以外は概ね之れを知らざる有樣なるが這は交通の不便に基因せるものなるべし而して斯かる交通不便の地方人民は一般に未開のもの多きに依り漸次調査を進捗し次で實際賦課徵收の曉は或は種々の疑惑を惹起するに至るやも計らず又其他の未開地も亦斯くの如く新税賦課と同時に如何なる惡感の念を生ずる虞なきにあらざるべしと

●治道の竣功期

本年度に於て竣工すべき道路は約三十五里にして此工費は七十四萬圓なるが內群山全州間(十一里)は來る七月を以て開通し木浦光州間及其他は來年度に於て悉く開通すべき豫定なりと因みに韓國に於て始めて治道工事を起工したるは隆熙元年六月にして同年度の竣工は十五里、昨年度は三十三里にて本年度の竣工高のみにても之れを一筋道に換算すれば實に釜山より大邱に到る割合なりと

●韓海鯖魚の豐漁 昨今の鯖漁業は頗る盛んなるものなるが之れ全く潮流等の影響にはあらずして其捕獲方法の進步せしものなるべく本年は從來の一本釣法に依らずして揚繰及鰮網を用ひし結果斯くは多數の捕獲を得しものなるべしと

●澤田局長の招宴 內部次官代理澤田地方局長は昨十三日午後六時より任度相、次官代理鈴木局長及目下上京中の各財務監督局長を掬翠樓に招待し晩餐會を催ふせし筈なるが主人側よりは澤田局長、武石會計課長、平渡府郡課長及地方局高等官等出せりと

●金融組合員の舟遊會 今般地方各農工銀行支配人の上京を機とし野坂、遠山、久能の諸氏委員となり韓國金融組合所屬員及度支部理財局員一同は來る十六日日曜を期し漢江に舟遊を試み終つて八景園に於て懇親會を開催する筈なり

●英國汽船仁川入港 英國汽船アカンノン號は一昨日午後一時大連より仁川に入港

●大邱昨今の荷爲替 大邱にては昨今米價一石に付七八十錢方昂騰したるより各方面荷動き忙しく倭館、大邱、慶山の穀物業者が一銀を經て釜山、京城方面への荷爲替一日一萬圓乃至二萬圓にて金融界漸く繁忙の模樣なりと

●能島進氏と電通 電報通信社京城支局主任たりし能島進氏は今回同社大坂支局員に轉じ來る二十日頃京城を出發大坂支局赴任すべき豫定なりと

●南山本願寺の法會 曩に婦人會員等の篤志を以て出願せる見眞大師繪傳は一昨夜南大門驛着該信徒の盛なる奉迎ありたるが昨日午後二時より右繪傳組解式をなし引續き午後八時より供養會を執行せりと尚ほ十五日午後二時よりも供養會執行の由なり

公人私人

▲白井良一(統監府特許局審査官) 十二日入京
▲河村九淵(農學士) 十二日東京へ
▲唐家禎(吉林銅鑛局誌理) 十二日入京城館
▲谷川貞彥(同局員) 同上
▲依田猪二三(三井物産會社員) 同上
▲三輪政一(水原居留民總代) 同浦尾

近事片々

▲統監 政治に就て伊公と山公と意見を上下し兩公の意見一致せりと果して事實にや
▲其結果 曾禰副統監の進退云々而も之に就き桂首相杉山ホラ丸も協議に與れりと云ふ
▲曾禰 子に內地の某地位を授るか又は官制改革に依て副統監を廢して解決すべしと
▲以上 は東京毎日の揭る所なるが果して左る事實あるものか臆說とのみ信ず可らず
▲依是 觀之曾禰子の歸朝を命ぜられしは統監に陞任の相談を受るが爲とは受取難し
▲官制 改革に依りて副統監を廢することは最も望ましき事宜しく虛飾政治は廢せよ
▲總務 長官を韓國大臣の上におらしめ以て統一するも可長官制度を採るも亦た可なり
▲或る 一二省に大臣を置きて他は長官制度とし今の次官連に實權を握らしむるも妙
▲何れ にして茲元一改革を爲さゞれば實に保護政治の運用發展は迚も出來ざる也
▲大坂 朝日の天聲子曰く韓國に於て日本人が法律學校を建る計畫は飛でもない事也
▲馬鹿 眞似も大抵にするがよいとは適切の痛罵也世の中には隨分厄介の連中も多し
▲烟草 税の賦課に就て地方の韓人等は大分不平を鳴らす者多しと云ふ左もありなん
▲實際 徵收の場合には必ず悶着騷動がなければよいが到底是は失敗せざるを得すか
▲大久 保大將サーベルは拔く可き場合には必ず拔くべしと言はれたとの說あり眞乎
▲果し て事實ならば甚だ頼母し韓國の禍根たる暴徒の一掃必ずや大將の胸にあらん
▲外債 借換は今尚は困難英國の金融は順調に迎ひたるも今暫く閑散持續の後を要す
▲英蘭 銀行は公定利子を引下げたるも金融市場は未た眞の順調には至らずとの事也
▲平田 內相內務省に報德巡錫使なる一の奇妙なる官吏を二名置き地方を巡回せしむ
▲其役 目は公德心の涵養勤儉貯蓄奬勵の說敎をなさしむ也と北條時代の青砥藤綱乎
▲橫井 時雄懺悔して曰く成功を急ぎ從て子分養成の必要あり爲に橫道に入りたりと
▲唯歎 くは故父の名を汚したる事也子孫に愚父の耻を雪ぐ可く傳言せよと心事可憐

●朝鮮米依然好況

[illegible]は昨今大坂への出廻り非常に增加し[illegible]當市場の餘程潤澤となりしも何樣韓國よりの來荷の引緩りを告げ居れると買手は何れも昇騰後買附けたるものなれば安直には商談に應ずべくもあらず殊に買手は阪神間精米筋の相場の如何に拘はらず買氣薄々たるもあれば殆んど無人の境を行くが如く依然上向きの歩調を持續し容易に行悩への模樣なき狀態なるが馬山浦上米は流石に行き悩への氣味にて十二圓六十錢は先づ手控への姿なりと

●第一銀行金買收高 第一銀行[illegible]支店に於ける四月中の金買收高は本年は韓人の砂金採取に從事するもの多き爲め其買收高は砂金並に金石共にて十四貫二百六十九匁之を前月に比し五貫五百九十四匁を增し而して[illegible]の結果は平均千分の七百六十五なりと因みに日本人の砂金業は從來の淺野氏の外本年より長崎人原仙太郎氏從事し而して其他は皆總て韓人なりと

●[illegible]入港船と上陸者 一昨日の仁川入港船は尼ヶ崎の大有丸及び郵船の北淸命令航路船の二隻にして其の上陸者は男七十四人女二十二人にて出港船は一隻もなかりしと

●天氣豫報 (自十三日午後六時 至十四日午後六時)

北東の風晴後曇

十三日 最高溫度 六八、四 最低溫度 四四、二 (華氏)

●朝鮮米依然好況

[illegible]は昨今大坂への出廻り非常に增加し從つて阪地市場は餘程潤澤となりしも何樣引續き相場の引締りを告げ居れると買手は何れも昇騰後買附けたるものなれば安値には商談に應ずべくもあらず殊に買手は阪神間精米筋の相場の如何に拘はらず買氣滿々たるものあれば殆んど無人の境を行くが如く依然上向きの步調を持續し容易に行惱への模樣なき狀態なるが馬山浦上米は流石に行き惱への氣味にて十二圓六十錢は先づ手控への姿なりと

●平壤第一銀金買收高

第一銀行平壤支店に於ける四月中の金買收高は本年は韓人の砂金採取に從事するもの多き爲め其買收高は砂金並に金石にて十四貫二百六十九匁之を前月に比し五貫五百九十四匁を增し而して其の結果は平均千分の七百六十五なりと因みに日本人の砂金業は從來の淺野氏の外本年より長崎人原仙太郎氏從事し而して其他は皆總て韓人なりと

●出入船舶と上陸者

一昨日の仁川入港船は尼ケ崎の大有丸及び郵船の北淸命令航路船の二隻にして其の上陸者は男七十四人女二十二人にて出港船は一隻もなかりし

●天氣豫報(自十三日午後六時至十四日午後六時)

北東の風晴後曇

十三日 最高溫度 六八、四 最低溫度 四四、二 (華氏)



●當世女郎氣質(上)

△色男以て奈何となす

事は少しく舊聞に屬すれども法律ならねば、既往に溯りたりとて別に咎むる人もあるまじ、と前置簡畧に揚げ出すは、標題が示せる通り當世女郎氣質の一端にて粹樣方の誤參考にもとゲスの野暮天が書くなり鬼。

處は新町第一樓、殺生なれば名前は秘して慾の張之助とでもして置くべし、此の女郎に似合はぬ多情ものにて、眼に唾の空淚ならぬ眞情流露の優婚なれば、顏より心の優しきに打ち込む嫖客も少からず、取り分け時の度支部官吏今の仁川某官署主任某といふは、相當の地位あるのみか故國には妻子もある身の、偶ま張之助を買ひ初めたるが病付となりて、それこそ下世話に言ふ通り、鴉の鳴かぬ日はありとも廓に通はぬ夜はなき有樣に、素より多情の張之助は男の情に絆され氣味の、滿更惜くらしいとも思はざりけり、かゝりし程に突然轉任の命は下りて、今の仁川某官署に轉任する事となりしかば、男は愈よ腑を堅めて、張之助根引きの決心をなし、それと女に打ち開けたるに、女は熟々思ふやう「われ今まで苦界に沈みて浮川竹の流れは酌めども、一朝風雲に乘ずべくんば、氏なくして乘る玉の輿、彼方より飛んで來ぬとも限らぬ事、慾じ某官署の主任位ひに根引せられて其儘に貴重なれのが一代を、埋れ木同樣朽ち果たさんには餘りに惜しき我身ならずや、自重すべし〳〵」と、それとは言葉に現はさねど、私かに心に默頭きつゝ、其夜は兎角の返事もせで、酒にまぎらして寢たり鬼。

かくて男は愈々轉任の期日も迫りし事とて燃ゆ付くやうに氣を焦立ち、其翌晚今宵こそ張之助を說服して、第一樓を落籍させ、明日にも鶯巷の番ひ鳥、手に手を取りて仁川へ赴むかんものと、豫期しつゝ、再び第一樓を訪づれしが、折惡しくも張之助は他客の座敷に呼ばれ居りて、部屋は藻拔けの蟬の殼、ジリ〳〵と鳴る鐵瓶の湯氣さへ朦朧と淋しきに、今更ながら氣を滅入らし、待ち勞れて燒け氣味の、隣り座敷の唄の聲若しや夫れかと耳を澄まして窃そかに襖に立ち寄りて、襖を細目に押し開き、窃見すれば失敗たり、敵はそれとも知らざりしか、可愛い張之助に認められ、凝然と眺められたる心地の惡るさ、流石にはしたなき暴動を耻ぢて、悔へども既に後の祭りの冷汗背を濕ほすばかり又詮術もあらざり鬼(未完)

●富田民長の容態

▲其后經過良好にして ▲牛乳一合を飮み初む

自宅庭園にて自刃せし仁川民長富田耕司氏は目下仁川病院第十六號室に於いて尾崎院長及び森元外科主任等其の他看護婦數名の看護を受け居れるが其の後の容態を聞くに

▲牛乳一合を飮む●●●●● 前記醫師の外室内には何人の出入をも禁じ居れるが醫師の語る所に由れば其の後經過は頗る良好にして昨朝は熱度二十七度六分を示し十一時頃三十八度を示し脈搏亦百餘を打つも其は貧血に由り此の容態を呈するものにして若し此儘熱出でずして經過するに於いては生命には別條なかるべく又一昨夕は醫師の勸むる牛乳一合を飮み又醫師は談話等はなさざる樣になし居るも時々濟まぬとか御厄介を掛けますとか小聲にて囁くとのことなれば生氣は確かに存するものゝ如し

▲手當の效果あり●●●● 檢視せし警察官の語る所に由れば兇器は未だ嘗て如斯立派なる自殺を見たることなく容姿整然として亂れず壯烈なる割腹を爲したるが醫師の手當の早かりし爲め斯く生命を取り止め得たる者也

▲見舞狀頻々●●● 此の報各地に達するや諸方よりの見舞狀頻々たり長濱關稅總長外數十通の多きに達し又京都醫科大學總長よりは見舞旁容態を申し越すべしと言ひ越されたりと

▲親戚の來仁●●●● 鄉里大分縣日出よりは此訃音に接し親戚南小三郎氏及び二男某は直に出發したる由にて昨夜着仁したる筈なり

▲叙勳●● 韓國陛下には民長危篤なるを聞し召され十二日付けを以て勳四等に叙し大極章を下賜せられたりと

●韓錢十萬貫の差押

▲不正問屋の奸計 ▲通稅せんとして看破さる ▲張本人の行衛不明……

頃日來大坂稅關附近にて韓國より葉錢(靑銅の穴明錢にして日本の一文錢と同質のもの)數十萬斤を密輸入せんとして稅關監吏のために發見せられ悉皆現品の差押を食ひたるものありとの噂喧しく某倉庫に五戸前も一杯に積であるの、イヤ解船に積だまゝ捨てゝあるのと甲乙の取沙汰區々にして眞僞の程判明せず、當局者も堅く口を緘して事實の有無を告げざる由なるが大阪朝日は左の如く報せり

▲韓政府の拂下品 去る三月一日韓國政府の依托により京城第一銀行支店に於て前記葉錢約十萬貫の指名入札拂下をなせり、從來も屢此の入札拂下は行はれたるが購入者は之を鑄潰して地金となし賣却するものにして入札價格が銅の相場の高低により差のあることは勿論ながら此の前は大阪の天野仁三郎といふが一萬五千貫目を一貫目一圓十六錢八厘の割にて落札したり然るに三月一日開札の時は同地東區上町川島伊三郎南區鍛冶屋町小寺元次郎及江戸町橋本雄造といふ現に多額納稅者にして貴族院議員たる船具兼金物商の三名が連合し橋本金主となり同人名義を以て一貫目九十八錢三厘の割合にて落札したり

▲通稅の奸計 而して右の十万貫を約十貫目入の錏包みとなし、尼崎汽船會社の汽船大有丸及び神代丸に積込み**釜山**より大坂港に入港したるは四月の中旬なるが之を荷揚せんとするに當り北區富島町回漕店五洋商會員稻岡照雄が荷主より通關手續の委任を受けたるを奇貨とし監吏の眼を晦まして不正の利を得んとし銅吹業南區難波稻荷町千五番地小寺友七を語らひ築港の荷揚場は狹隘にして荷揚作業に困難なればとて小寺方の納屋に一旦積上げたる上檢査を受けたき旨願出で許可を得て四月二十日に見事荷揚を終りたるが翌日稅監吏の臨檢に際し密に不正衡器を使用し且部分檢査を受けて全體の目方を低めるため可成輕きものを上部と下部に積み其の分のみの檢査を受くるやう巧に拵らへ合計にて約八萬斤ばかりを曖昧にしたるが程なく此の奸計を監吏に發見せられ爾來嚴重なる調査を受け、終に犯則者として稅關より一切の假差押を受けたるものなり

▲發見の緒口 最初檢査に向ふ監吏は三名の筈なりしが當日更に二名を增して都合五名の監吏が臨檢したり然るに全體の荷物に部分檢査(俗に廻し檢査といふ)を終り方に引揚げんとするに際し其の内の一監吏が衡器に怪しき點ありとなし試みに自分の體量を量りたるに著るしき低位を示したれば偖てこそと俄に大騷ぎとなり直に他の四名の監吏に告げたれば其の旨本署に向つて報告するに至りしなりと而して此總高は拾万貫にして一万餘の叺に入れ山の如くに積まれかゝる儘封印をつけられ居れりと云ふ

●大阪新番附發表

大阪大相撲五月場所の新番附はいよ〳〵十一日拂曉發表されたり今同協會より寄贈し來りたる番附により其の新舊を對照すれば左の如し

東の方

	(新)	(舊)
大關	大木戸	大木戸
關脇	陣幕	陣幕
小結	扇海	玉の森
前頭	西昇	扇海
同	有知山	大林
同	六ケ峯	鳴門岩
同	鳴門岩	西昇
同	大林	改心
同	妨	有知山
同	小緑	小緑
同	加古川	千山
同	鶴ケ濱	六ケ峯
同	勝時	鶴ケ濱
同	松の音	九紋龍
同	小錦	澤の鶴
張出大關	友岩	友岩
張出前頭	玉の森	虎ケ嶽

西の方

	(新)	(舊)
大關	放駒	放駒
關脇	大錦	大錦
小結	綾瀬川	又泉
前頭	大虎	大虎
同	千舟川	時の松
同	時の松	鷲ケ嶽
同	凰車	男鈴山
同	男鈴山	勇木戸
同	鷲ケ嶽	小島山
同	勇木戸	千舟川
同	早瀬川	西の海
同	龍ケ谷	早瀬川
同	松若	朝嵐
同	西の海	松若
同	朝嵐	月の戸
同		鶴ケ嶽
張出	前頭 又泉	小結 綾瀬川

●昨日の神輿渡御式

仁川日本公園大神宮神輿渡御式は既報の如く一日廻期せられ一昨日擧行せられたるが神輿は例年の如く午後二時便殿を出御し市中を巡行したる上午後七時過ぎ無事還御ありたるが此の外檢番の藝妓其の他の余興棟り物出でたれば市中は頗る賑はしかりし

●車夫の爭論

一昨日午後九時半頃本町早瀨組支店にて同組の車夫木下喜四郎(三〇)永田金吉(三四)の兩人互に爭論を爲し果ては捌合にも至らんとせし處へ警官出張して取調べたるに喜四郎は金吉より金九十錢借用し居りしかば金吉は當夜喜四郎に向ひ右の督促を爲したるに言葉遣が氣に喰はぬとて爭論を初めたる事判明し警官は同組の帳場伊藤善三郎を呼出して兩人を諭し引取らしめたり

●ヨボ車夫の撲合

西署南門洞車夫李社春(三〇)安景植(三九)の兩人は一昨日午後四時頃南署公洞崔元植と云へる酒店に於て鱈腹掘つた揚句愚にも付かぬ事より喧嘩を初め果ては撲合となりたるを巡査出張して取鎭めたり

●公判だより

來る十四日京城法務院に於て開廷せらるべき公判左の如し

▲民事部(午前十時)上訴人竹下武二被上訴人供致淳間賣掛代金請求事件

▲刑事部(午前十時)池端芳太郎及服部瀧治外一名に對する傷害及傷害助勢事件、杳見淸二郎の賭博、岸本杉藏の窃盜、松村佐一の詐欺、砂山林助辻源次郎の窃盜等の諸件

●壽座

本日の替狂言は百年の仇にして重なる配役左の如し

堀内吉之助(松村)高橋誠市(小柳)金兵衛(大山)すき子(藤原)善兵衛(東郷)堀内妻た新(篠田)田本玄道(阿部)仲居れしつ(池田)若者銀次(富士見)妓夫金太(高山)井上上等兵(中村)幸二郎妻れせん(小堀)高橋幸二郎(田宮)

●ぶらつ記(八)

ぼく

於、既に三越吳服店頭、造花の錦、リボンの瀧、千紫萬紅、絢爛たるかなや店頭の觀、此の壯觀を見るにつけ、豫ねて固めし決心の、臍は緩んで噛めもせず、中民の悲しさ、不思ヌチ〳〵。窮つた時程猶更に、弱點を示表などは、是れ我先考の遺言也、此の場此の時偶然胸に浮ぶ、天祐也、即ちウンと反り返り、傲然として入る、其の鼻先に叮嚀に『入來しやいませ、ドウゾ此方へ、誠に結構なお天氣樣でお掛け下さいまし』とお點頭と世辭を椅子諸共差出す、一分も透さぬ客扱ひ、叮嚀な程此方には、態とぢやないか猜り心の、店員た客の皆の眼が、何樣に我が身に注れるかと、息を潛み、肩を張り拳を握り、順次に店内一順、見渡した眼の行き止り、方い隅の帳場格子の、内に何にやら、ピカリと光るものゝあり、訝と不審の眼に熟と凝視むれば此れ金にあらず、玻璃にあらず又珠玉にあらず、正しく人の頭顱也。然り正しく**禿げたる人の頭頂**也。驚くを止めよ。此の頭顱の持ち主こそ纖細複雜極まりなき京城三越吳服雜貨部の主任**柄澤君**其人なり。

僕私かに意へらく、君や年齡未だ漸く三十五、七、滑かなること彼の如き頭顱を所持するには餘りに若かり、要するに店務萬端事繁くして累を此所に及ぼせるものなるべし、然り少くとも君が半生の光輝ある奮闘の歷史を語るものなるべし、妙なるかな、光輝ある奮闘の歷史の、光輝ある頭顱に依つて表示せられつゝあることや。

悴つきながら元來暢氣の、椅子に茫然失神のした如、考へ込んだ耳許へ「何をお目に掛け申しませうか」優しい、と、よりは溫和しい、**混合物のない東京辯**に、氣を附けられて遽かに我れに返つて見れば目に附く種々、皆んな欲しい、何れも欲しい、女小供が三越の前は成る丈け目を瞑つて通るが常いと云ふも宜なり、男の僕さへ皆欲しいと思ふもの。



然れども金に制限あり、迂濶に買つて足し前にペソを搔いては恥の上塗りと、丹田に氣を壓し鎭め、地質、縞柄見ぶ振りして、胸に置いたる算盤に外れぬ樣に買ひ取りたる内に單地**縞モスリン**と云ふがあり、價も廉に見た所も、なか〳〵立派で中流の此れから先きの召衣には手輕で宜しと賴まれた譯けではないがお勸めする。

閑話休題 卒勘定の段となる合して十二圓廿錢、二圓廿錢だけは承知の上の買越也此れ抑も何んの謂ぞ、疑ふを止めよ切手計りも出せないからの遠慮とこそは思召せ。切手を見たら嘸厭な顏見せられんと思ひしに、差し出す**切手を見ると等しく**小腰を屈め「**ハ有難ふムります**」と實際「現金」は叮嚀」と深く心配して居た丈け其の嬉しさも一倍身に泌み申したり僕と同じく不用らぬ心配する人も、無いとも限らぬ世は廣い、其の方へ斯くは其の始末を書きつけ申候、ナンダ詰らないと笑はば笑へ、笑へば其に福が來る(此項了)

(四) (第三種郵便物認可) 明治四十二年五月十四日 京城新報 (金曜日) 第百八號

各種洗濯石鹸專門製造販賣

用途 陸軍、鐵道、船舶、鐵工、鑛山、水道、諸工業用

京城旭町二丁目 (電話九十三番)

朝日石鹸製造所

▲無料紹介欄▼

人事部

雇われたし 家族少なき家を望む十九女 (氏名在社)

年廿五体强簿記精通會社商店へ雇はれたし確實保證人あり給料多額を望まず 氏名在社(二四〇)

長崎縣人 佐藤コノ 上記の人住所御存知の方は乍御手數京城旭町一丁目池田質店迄御報を乞ふ (二四五)

女中入用年齡問はず清潔好きの者身元保證人を要す 南山町一の四七 月報社係

●雇入 十五歲以上二十歲以下丁稚至急入用 龍山元町三 H韓組

●教授 禮法茶道活花琴教授す 旭町二の七〇 九目幸舜 (二五二)

小僧入用 十五六歲にて身体强健なる者希望者は本欄係へ申込まるべし

物件部

貸家 若草町一温突一間疊敷二間日本流押込二外に炊事場玄關井戸付家賃一三五〇 若草町一の一二九矢島 (二四一)

貸家 若草町温突二間疊敷二間日本流押込付外に炊事場玄關井戸付家賃一三五〇 若草町一の一二九矢嶋 (二四二)

貸家 若草町一温突三間半疊敷一間炊事場押込付家賃一三五〇 若草町一の一二九矢島 (二四三)

求貸家 西大門外西小門外方面なる四五十間の韓人家屋を格安にて貸受けたし 氏名在社 (二四七)

●求貸二階 南大門より本町三丁目迄の所にて眺望のよき二階二間(床、押入付)格安にて借受たし 姓名在社 (二五一)

●賣却 古寫眞器附屬品共安價にて讓渡したし 氏名在社 (二五三)

醬油釀造場 釀造道具一切付格安にて貸たし 社内鵜崎

廣告

陸軍御用
大韓醫院御用
純良消毒 牛乳
京城南大門外
荒井牧場
電話一〇五六番

九州セメント
上等生石灰販賣
京城南山町一丁目電話三四四番
山村商店
龍山元町一丁目 電話三四八番
中村運送店

東洋總代理店



藤原京城支店
電話 壹壹八〇 壹二九四 番

金水舍製ラムネ
一衛生無害 ラムネ、ミカン水
昨年の通り純良なるラムネ、ミカン水製造販賣仕候間續續御愛飲を乞ふ
京城大和町二丁目
漢城製藥所 藥劑師 渡邊悅之輔

明治廿年七月創立
米 東京火災運送海上保險株式會社
資本金一千萬圓
事務所 京城本町二ノ三 電話 〇六〇番
京城代辨店 本町四 山口吳服店 電話九

歐州各國帝室御用品
品質優等、意匠艶麗
新荷着廣告
G.D.印 トルコ金口煙草 (百本入 十本入)
右今般多數入荷致候に付精々廉價發賣致候間多少に不拘御用命願上候
追て見本品並に價格表は御申越次第御送附可申上候
直輸入元 仁川本町一丁目 トルコ煙草商會 (電話七一五番)

元祖
消毒 牛乳
殺菌
京城大和町壹丁目
平山牧場
電話一一三三

株式會社 第一銀行韓國總支店
電話番號 長第一二番 國庫部・發行部・營業課・當直用
第六六番 國庫部・發行部・營業課・當直用
第六二番 支配人・調査部・文書課用
第二三一番 用度係・分折所用
臨時建築部用

本店 東京市日本橋區兜町
內地支店 大阪、京都、神戸、名古屋、横濱、四日市、下關
出張所 伏見、東京新大阪町
韓國支店 仁川、釜山、大邱、京城
出張所 群山、木浦、鎭南浦、平壤、元山、城津、咸興、馬山
清國出張所 安東縣
右の外内外各地重要なる場所には爲替取引先あり營業事務に關する御用向は當店營業課長に御談被下度候



特約販賣 自製
漬物・醬油 製造元
京城本町五丁目
和洋酒、精米、穀物麵、鉛茶、罐詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、塩辛各種特約販賣
尙御望に依り商品切手調進仕候
大上商店
(電話一二五一番)

卸 新茶賣出し
小賣



京城本町五丁目
富士の里茶舖
電話九九七番

醫術開業廣告
五月一日より六丁目共愛社醫院跡にて
眼科
內科
外科
花柳病科
特に眼科は河本博士に多年親灸せり
東京醫科大學撰科卒業
同國家醫學講習科卒業
瀧澤醫院
瀧澤喜太郎

開業廣告
夫婦ぜんざい
あま酒
あめ湯
旭町二丁目三番戶
岸遊亭

京城本町一丁目文房具店
待合 春日
電話九七〇番
洋室各種設備付アリ

京城南山町二丁目
待合 かしく
電話二二九番

西洋料理
京城旭町三丁目
にしき支店
電話七百二十九番
出前仕候

鴨綠江特種木材 九州セメント取次販賣
末口一尺八寸以上長さ五間迄其他各種材
京城旭町三丁目
建築業 柴田芝六
電話五六八番

東京流
貸席
待合
電話五二〇番
南山町 大和

開業御披露
春の桃山よいどころ。
松のみどりに桃の花。
山や野べの遊びも嬉し。
大和撫子植へそろふ。
桃山遊廓開運樓は。
龍話の花の咲き匂ふ也。
五月七日より開業
龍山桃山遊廓
開運樓
電話四二二番

開業御披露
巳壽し
並に折詰御好次第
京城壽町一丁目
巳すし
(電話一〇一七番)

營業科目
石版印刷 活版印刷
木版彫刻 銅版彫刻
コロタイプ版 寫眞版
製本製函 裝訂
今般日韓印刷株式會社ヲ改稱シ左記ノ所ニ於テ日韓印刷株式會社ト改稱シ營業仕候間倍舊ノ御引立ヲ願上候
日韓印刷株式會社
本社 京城明治町三丁目 電話(三二三番)
東京出張所 東京京橋區南鍋町一ノ十 電話新橋(三九六二番)

○○○○○○○○○○
辯護士 岡田榮
京城旭町一丁目十七番戶
○○○○○○○○○○

新案衛生着物及調進 井本秀太郎
京城本町一丁目

廿錢均一 毎夜無休
午後六時開場
京城第一の娛樂場
終日の勞を慰せんと欲するには須らく弊座に來られよ必ず御興あるべからん
雨天は半額
電話千百二十七番
京城座

▲清潔の下宿▼
客室の清潔さ調理の美味さ御扱の懇切さを特色として下宿營業仕候間賑々敷御投宿の程御願申上候
壽町二丁目十番戶横小路 (元花屋跡)
▲懇切の下宿▼
かめ屋

◉氣候變化=牛乳
◉牛乳=純良=消毒
韓國畜產株式會社
南大門外(電話八八番)

統監府御用
諸官衙人力車
荷物荷造及運搬
營業 京城曙町 (電話七三番)
本店 同本町三丁目 (電話四〇番)
伊藤組

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候
資本金 參百萬圓
積立及繰越金 八拾萬圓
京城南大門通
株式會社 十八銀行 京城支店 (電話四二〇)
本店 長崎市築町
支店出張所 大阪、熊本、五島、壹岐、佐世保、嚴原、京城、龍山、仁川、木浦、釜山、元山、鎭南浦、群山
其他日本、韓國樞要地、及露領浦鹽に爲替取引先あり

韓國 日本

貯蓄預金
一口壹錢以上何程にても御預り申候
(利息日歩壹錢四厘)
長崎貯蓄銀行代理店
(十八銀行京城支店)

日本郵船株式會社 電話十番
仁川出帆廣告
貨物及船客取扱店
仁川海岸通
郡回漕店
電話三九番

釜山長崎門司神戸行 東京丸 五月 日午後三時出
大連、太沽、牛莊行 山東丸 五月 正午出
大連、太沽、牛莊行 砂丸 五月二十七日正午時出
大連、太沽、牛莊行 山口丸 五月二十五日前五時出
大連、大沽、牛莊行 酒田丸 五月 正午出
釜山出帆、元山、清津、浦鹽行 神立丸 五月二十六日

●艀賃 ▲一人 ▲一ヶ月
●御乘船ノ際ハ波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西大門外 京城新報社 電話六六三番